

経尿道的膀胱結石碎石術（TUVL）について

1. 病名、症状

- ・ 病名：膀胱結石
- ・ 症状：血尿、疼痛

2. この手術の必要性、受けなかった場合の予後、予測

膀胱内に結石ができています。原因は、腎臓から結石が落ちてきて、膀胱から結石を排尿できずに大きくなった可能性、細菌が結石を形成した場合などがあります。膀胱結石は徐々に大きくなり、慢性膀胱炎や頻尿、膀胱痛などの原因になります。

3. 手術の計画・内容・方法、対象部位（左右、上下など）

<麻酔>

全身麻酔 あるいは 脊椎麻酔 で施行します。

<治療の流れ>

- 感染予防のため、抗生剤の点滴や内服を行う場合があります。
- 手術時間は結石の大きさによって手術時間が変わります。早ければ30分で終わることもあります。
- 尿道から細い内視鏡カメラを挿入し膀胱内の結石を観察します。
- 結石をリソクラストあるいはレーザーにて碎石し、摘出します。
- 治療終了後は約3時間程度のベッド上安静が必要です。
- 結石の大きさによっては一度の碎石で治療が完結しない場合があります、2回必要となる可能性があります。

このような場合、後日再度治療を行うか、もしくは別の治療を行う必要があります。

4. 手術の一般的な経過と注意事項

治療終了後は約3時間程度のベッド上安静が必要です。

5. 期待される効果

慢性膀胱炎や頻尿、膀胱痛などが改善されます。

6. 予想される危険性・合併症・副作用と対処方法

- 1) 出血：膀胱からのわずかな出血（特に血尿）はすべての方にみられます。程度が強い場合は膀胱留置カテーテルの留置期間を長くしたりします。
- 2) 術後、尿路感染症により発熱が生じることがあります。